

杉並ユネスコ協会会報

149号

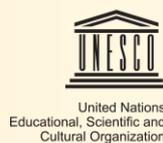
2023年
8月30日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

特集 ミャンマーを訪れて……………2	国際中学生交歓会／中学生クラブ……………6
2023年度総会／役員・理事一覧……………4	広島スタディツアー……………7
都ユ連研修会……………5	書きそんじハガキ・キャンペーン／活動予定……………8

ミャンマーの国旗：黄は「国民の団結」、緑は「平和と豊かな自然環境」、赤は「勇気と決断力」を象徴し、
白い星はミャンマーが地理的・民族的に一体化する意義を示している。（東京都立図書館 HP より）

ミャンマーにつながる細い糸を紡ぐ

林 美紀子

ひと昔まえまではビルマといえば、私たちが思うかべるのは映画「ビルマの豎琴」、軍事政権、アウンサンスーチー氏のことくらいだった。その「ビルマ」は1989年国名が「ビルマ連邦」から「ミャンマー連邦」に変わり、今はミャンマーとよばれるようになっていく。そのミャンマーで2008年5月ナルギスと呼ばれたサイクロンによって大災害が発生し、その支援について話す機会をきっかけとして、東京都ユネスコ連絡協議会に「ミャンマー検討会」が生まれた。その後「ミャンマー検討会」は独立して2015年「ミンガラパー・ユネスコクラブ」となり、日本ユネスコ協会連盟に加盟した。このクラブはミャンマーとの交流や教育支援を活動の主としており、細い糸ながら国内外に人脈を築き活動を続けている。

検討会の間も含め、このクラブでは2009年来から2018年までスタディツアーを6回実施した。2009年訪問の折はまだ軍政下であったので、軍に関連する施設は勿論撮影禁止、また、5人以上で集まり話をしていくと危ないなどと現地で聞いた時代だった。

やがて2011年には軍事政権が民政移管して、人々が待ち望む民主政治がすすみはじめた。訪問するごとにヤンゴンの街も地方の都市も活気を帯び、人々も忙しげであったので、きっと新しいミャンマーになるであろうと思わされた。

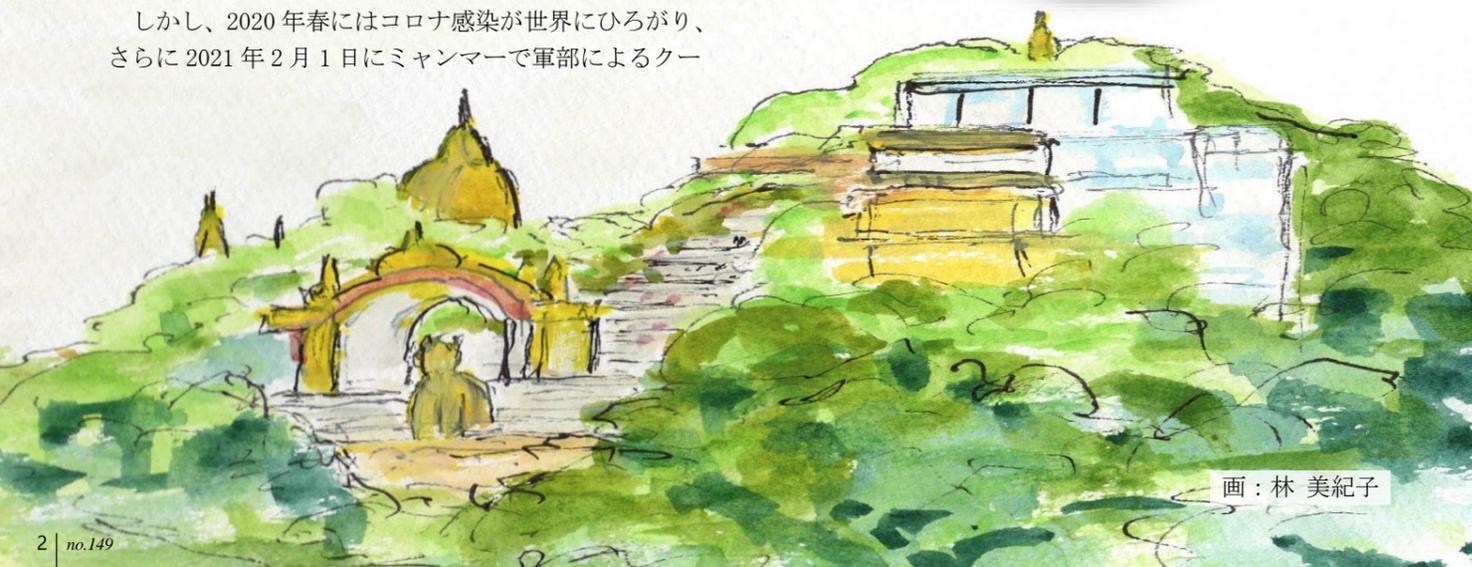
私たちは2011年来、ヤンゴンから北へ車で1時間半ほどの地方にある小さな公立小学校を毎回訪問していた。この学校でも目に見える変化を感じた。はじめて学校を訪問した折には学校にトイレがなく、都連の仲間の募金でトイレ建設費を寄付した。それが2018年訪問の際には、韓国資本が現地に入ったとのことで、古い校舎の改装がなされ、立派なトイレや新しい校舎も建っているのを目の当たりにした。校長先生が「中学生もこの学校に入学できるようにしたい」と語っておられたのが印象的だった。この日は初めて親の代表たちとも話す機会があり、今後の交流に期待がもてた。

しかし、2020年春にはコロナ感染が世界にひろがり、さらに2021年2月1日にミャンマーで軍部によるクー

デターが起きて、軍人が再び政権についた。こうした状況下、私たちは報道を見聞きしたり、支援に協力したりする以外、今はツアーを実施できずにいる。

武力による衝突や空爆がなされたという報道に接するたび、私たちが出会った公立小学校や僧院学校、あるいは日ユの世界寺子屋運動支援による教室で出会った生徒たちは勉強がつけられているかが気がかりだ。その上、自由な社会の空気に馴染んできた若者たちが親や兄弟とも別れ、武器をとり民主的社會のために軍と戦っているという。戦わずにはいられないほどに若者たちを追い詰めている現状は、将来のミャンマーにとってどれほどの損失であろうか。

実は、ミャンマーの学校には音楽、美術、体育などの授業はなく、民主化にともなう教育改革で少しずつ音楽などが取り入れられていきつつあると聞いていた。そこで2018年学校での子どもたちとの交流の折、歌を歌ってほしいとお願いした。すると子どもたちは地響きのような歌ごえを私たちにきかせてくれた。伴奏楽器もなく、指揮者もいなかったのに、70人くらいの子どもたちが一糸乱れずその歌を歌ってくれたのである。思いもかけない力強い歌声に心打たれ、その歌はどんな内容かとても気になった。ガイドさんにきいたところ、全国で歌われ、タイトルを「Myanmar student」という。幸い帰国後にYouTubeで視聴ができた。英語の歌詞をみると子どもたちがこの歌を精魂こめて歌ったことがわかる気がした。



画：林 美紀子

ミャンマーの人たちの未来のために

大野 克子

アジア最後のフロンティアと呼ばれ、世界中から注目を集めていたミャンマー、2013年に初めて訪れた。当時は民主化が進みつつあり、町には活気が溢れて経済も上向き、人々の信仰深さにも触れられ、とても心地良いと感じたことを記憶している。

しかし、2021年のクーデターでふたたび国軍が実権を握り、民主化を求める人々に対する攻撃がエスカレートしており、出口は一向に見えてこない。国軍は、「四断作戦 (Four Cuts)」という戦術で攻撃を加えているが、これは、食糧、資金、情報、戦闘員の補充の4つを絶つことで少数民族を中心とする武力勢力を弱体化させることが狙いである。人々は暮らしを支える職もなく経済的な苦境が続く中、国民の約半数が貧困状態に置かれている状況下にある (※1)。

ヤンゴン在住の知人によると、停電などはあるがデモなどはなく、町は以前と変わらない平穏を保っているというが、恐怖の中での生活とはいったいどれほどのものだろうか。

今年4月のUNHCR (国連難民高等弁務官事務所) による発表では、国内で避難を強いられている人は147万人を超え、隣国へ逃れた難民は推定5万2千人を超えたそう。彼らは自分の村や町が空爆により焼き払われ、逃げれば後ろから撃たれるという状況下であり、国軍に見つからないようジャングルの中を逃げ回っている。

2021年のクーデター後のミャンマーでは、公立学校が軍の統制下に置かれたため、子どもたちを通わせることが軍を支持したことになる学校に通わせない保護者が増えたという。ミャンマーで学校に通えない子どもたちが判断力を身につけられないままに成長してしまうことが懸念されている。

先日、青空教室で学ぶ子どもたちの写真を目にした。過酷な環境下であっても子どもたちに学びの機会を与えたいという大人や学生たちが青空の下で指導しているという。

今年の7月初旬に行われた日本語能力試験 (JLPT) の応募者は急増し、10万人を超えたそう (※2)。背景には、国軍の権力掌握以降、多くの高校や大学の教員が辞職したこともあり、高等教育を受けられない若者が急増、国の将来に希望を抱けない若者が国外への留学や就職を望んでいることが大きな要因となっている。

先の見通しが立たない中で、必死で生きているミャンマーの人たちのために、今、私たちは何ができるのだろうか。

※1 アジア開発銀行「アジア経済見通し」2023年4月版
※2 国際交流基金ヤンゴン日本文化センター発表



1. まわりの人に伝える
身近な人との会話の話題にしたり、SNSで情報を発信し、ミャンマーへの関心の輪を広げましょう。
2. 募金・クラウドファンディングへ支援する
駅前募金活動を見たら、笑顔で「頑張ってる」と一言を。彼らの大きな希望となります。
3. ミャンマーのイベントや募金活動に参加する
4. 留学生や実習生をサポートする
5. 留学生や企業での受け入れ枠拡大を応援する
生活のためのアルバイトが見つからない、就活が困難など厳しい環境を強いられています。話を聞いてあげたり、知り合いを紹介するなどの支えを。



ユネスコ料理教室 「料理からミャンマーに思いを馳せる」

ミャンマー料理を作りながら、人々の暮らしに思いを馳せませんか。実習後には、新年の大きなお祭り「水かけ祭り」で見られる伝統的な踊りを講師が披露します。

日 時：2023年10月21日(土) 10:00~14:00
場 所：セシオン杉並 料理室
講 師：レイレイウーさん/タンタンミンさん
募集人数：20名(抽選) 参加費：1,000円
対 象：杉並区在住、在勤、在学(中学生以上)
お 申 込：往復はがき：〒168-0063 杉並区和泉2-36-4
杉並ユネスコ協会 水上宛

10月3日必着

メール：sugiyu70@gmail.com
詳細は広報すぎなみ9月15日号をご覧ください。



2023年度 杉並ユネスコ協会総会

5月27日(土) 13:30~15:45
阿佐谷地域区民センター 第4・5集会室

研修会「ホロコーストの記憶と民主主義～イスラエルの今」

講師 小寺 隆幸 理事



杉並ユネスコ協会の2023年度総会が行われました。まず、佐藤直子会長より挨拶があり、新型コロナの状況、ロシアのウクライナ侵攻について触れたのち、SDGsの観点から気候変動についてコメントがありました。自身が参加した講座で、地球規模の温暖化が人々の住む場所を奪い、やがて限られた土地の奪い合いになるという話を受けて、温暖化を防ぐために一人ひとりができることを考えていかなければならないと訴えました。

次に、2022年7月に杉並区長に就任された岸本聡子氏よりご挨拶をいただきました。岸本区長からは、杉並協会の活動が戦争や気候変動、国内の貧困に至るまで、広い視点で行われていること、そして国際交流・相互理解という価値が、杉並区の多文化共生という価値に通じることから、協力関係を深めていきたいとお言葉をいただきました。また、広島スタディツアーの報告書をお読みになり、その意義についても言及されていました。

続いて、杉並区教育委員会教育長の白石高士氏よりご挨拶をいただきました。白石教育長からは、学びにとって人と人の関わりが重要であり、杉並協会の活動も人と人をつなぎ、その中から新しい価値を生み出すものであると指摘いただきました。そして、コロナ禍では人と人の関わりが社会的に認知されづらかったものの、世の中が戻りつつあるなかで、杉並協会の役割がより一層期待されるとおっしゃっていました。

そして来賓として、関谷隆・杉並区教育委員会事務局生涯学習担当部長、本橋宏巳・同事務局生涯学習推進課長、北川次男・杉並区社会教育センター所長、斎藤尚久・同センター社会教育推進担当係長、および同センター職員の山田しづか氏、渡邊美紅氏、山口京子氏が紹介されました。議事では、前年度の事業・決算報告、今年度の事業計画、予算案、および新役員・理事についての審議が行われ、大きな変更もなく、すべて承認されました。

総会後には、研修会として小寺隆幸理事による講演「ホロコーストの記憶と民主主義～イスラエルの今」が行われました。ユネスコ憲章にも謳われている「人種の不平等」の克服、「人間の尊厳・平等・相互の尊重」といった理念がどれほど意義深いものか、ナチスによるユダヤ人の迫害(ホロコースト)や現在のイスラエル社会(小寺氏が2023年2月に訪問)を事例として、改めて考えてみようとするものです。

「人間の不平等」は、アウシュビッツに見られるように、優生思想や国内の経済危機、大衆の扇動といった複雑な要素から生じています。ユダヤ人の尊厳は踏みにじられ、多くの命が奪われました。小寺氏は「被害者の尊厳に思いを寄せる」ことが重要だとし、テレジン収容所の子どもたち(※1)や、子どもの権利を尊重したコルチャック氏(※2)のエピソードを紹介しました。ユダヤ人犠牲者は何百万人とも言われていますが、数よりも一人ひとりに人生があり、尊厳があったことに注意を払わなくてはなりません。

一方、現在のイスラエル社会においてユダヤ人迫害の教訓はどのように受け継がれているのでしょうか。小寺氏は、現在のネタニヤフ政権による強権政治や、パレスチナへの圧力強化(入植、学校破壊など)から、懐疑的な見方をしていました。また、ユダヤ人であるサラ・ロイ氏の著書(※3)を紹介しながら、ユダヤ人の経験した「怒り」と同じ「怒り」を、今パレスチナの人々は持っており、イスラエルはその「怒り」を受け入れる(相手

の尊厳を思いやる)ことが必要だと訴えていました。

最後に、希望の芽として、イスラエルにある「ハンド・イン・ハンド」という学校(※4)が紹介されました。ここでは、ユダヤ人とアラブ人の生徒が共に学び生活しており、教員もユダヤ人とアラブ人で構成されています。教育を通して相互尊重の価値観を育むことが可能であり、非常に重要なことだと小寺氏は述べます。そして、私たちユネスコも教育分野において「平和の文化をつくる」活動をしており、その使命を強調していました。

※1 テレジン収容所とは、アウシュビッツの中継点として1941～45年にチェコに置かれていた収容所。1万5千人もの子どもたちが収容され、多くがアウシュビッツへ送られた。収容中の子どもたちは大人たちの努力により、絵を描いたり、詩を綴ったり、雑誌を作成するなど、わずかながらも人間らしい営みをする事ができた。

※2 ヤヌシュ・コルチャック(本名ヘンリク・ゴルトシュミット、1878～1942年)は、ポーランドの小児科医、作家、教育者。孤児院の院長を務め、生涯にわたり子どもの権利を訴え続けた。最期はナチスによる助命の申し出を拒否し、子どもたちと共にトレ布林カ収容所のガス室へ向かっていった。

※3 サラ・ロイ『ホロコーストからガザへ』青土社、2009年。サラ・ロイ氏はホロコーストを生き延びた両親から誕生。過去のユダヤ人迫害の経験を、現在パレスチナが受けている被害と結びつけ、自分と同じように他者を思うことが「公正な解決」につながると主張する。

※4 「ハンド・イン・ハンド」ホームページ
<https://www.handinhandk12.org/> (英語) (岩野智)

2023～24年度 杉並ユネスコ協会 役員・理事

顧問	岸本 聡子 (杉並区長)	白石 高士 (杉並区教育委員会教育長)	林 美紀子	朝倉 紘治	朝倉 洋子
会長	佐藤 直子				
副会長	板倉 徳江	小泉 俊子	山田 正	西野 裕代	
事務局長	山田 正	事務局次長	国嶋 順子		
会計	山田 正	小泉 俊子	大野 克子		
理事	井口 大夢	石井 明日香	井原 太一	岩野 智	大野 克子
	城戸 譲	国嶋 順子	小寺 隆幸	小林 穂菜美	佐藤 郁
	佐藤 航	芝 興子	島崎 泰子★	竹内 梓	辻 邦
	橋本 芳子	松田 美枝	馬橋 たみ子	水上 あつ子	村治 笙子
	村松 公子	山岸 禮子	山田 祐子	五十音順/★は新理事	
会計監査	朝倉 紘治	河野 道子			
青年部	部長	湯田 晴斗	副部長	園井 瑠璃子	森次 快
	会計	田村 紗依	福網 琴鈴		平本 寧々

東京都ユネスコ連絡協議会 研修会

2月23日(木・祝)、「都ユ連研修会」が久しぶりに対面で開催されました。Zoom参加者(10名)を含む90名を超える参加者が集まり、活発な議論が行われました。

今年(2023年)9月3日に、「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京」(関ブロ)が開催されます。そこで、関ブロのテーマや分科会の企画について皆でアイデアを出し合い、これからのユネスコ活動がどうあるべきかを話し合うことにしました。

開会は、池田敬都ユ連会長の挨拶で始まりました。「関ブロに向けて皆で力を合わせて頑張ろう!」と力強い挨拶でした。次に、同じ日の午前中に開催された「青年活動研修会」の報告があり、続いて次世代国内委員の森田乃絵さんから、ビデオレターを用いた活動報告がありました。青年たちの参加は少なかったものの、彼らの思いのこもった話を聞くことができました。

その後、都ユ連が一年かけて作り上げてきた「2000人プロジェクト」の進捗状況が報告されました。複数のアクションが順調に実施されており、今後のさらなる発展が望まれます。

基調報告は「日本ユネスコ協会連盟の最近の動きとブロック研究会に期待すること」というテーマで、日本ユネスコ協会連盟事務局長の尼子美博氏からお話をお聞きしました。尼子氏は日ユ協連の一年間の活動報告を行うとともに、同連盟が各ユネスコ協会・クラブの活動を支援していくとして、それをうまく活用してほしいと述べていました。

そして研修会の一番の目的である、関ブロにむけた話し合いでは、青年たちが進行役を務め、グループごとに大会のテーマを出し合いました(以下)。

- ① Together for Future ～国や文化、あらゆる違いをこえて、心に平和の砦を築こう!
- ② やさしい地球～子どもにほこれる未来を作る
- ③ UNESCOの原点に戻ろう
- ④ 明るい笑顔 世界に平和を!! 5000人で手をつなごう
- ⑤ ユネスコ活動で平和をつなげてゆこう!
- ⑥ 被爆国から考える平和と環境
- ⑦ 戦争、災害、コロナ禍で、私たちに何ができるか
- ⑧ 今こそ世界を平和に!
- ⑨ 「今」私達が共に出来ること!
- ⑩ 平和な社会の構築に向け、今、私たちにできることはまた、話し合いにおいて関ブロで行われる具体的な企画案も検討されました。充実したグループ討議を経て、関ブロにむけ都ユ連全員で力を合わせて盛り上げていくことを確認し、閉会となりました。(佐藤直子)



国際中学生交歓会

2023年4月5日(木)
セントメリーズ・インターナショナル・スクール

桜の季節に区内の中学生16名が、世田谷区のセントメリーズ・インターナショナル・スクールを訪問し、日本とは異なる学校生活を体験しました。まず、中学生たちは校長室の前でセントメリーズ校のバディ(案内係。中学生1名に対してセントメリーズ校の生徒1名が付く)と対面し、それぞれの教室へ向かっていきました。授業のチャイムは鳴らず、時間が来ると生徒たちは担当の先生の教室へ移動して授業を受けます。授業は、数学のように自分の座席で問題を解きながら勉強するスタイルもあれば、社会科のようにディスカッションをしながらグループで作業するスタイルもありました。中学生たちは一生懸命英語を使って、周りとは話しながら授業になじんでいました。



昼休みになると、セントメリーズ校の男子生徒に混じってサッカーをする女子や、その他の女子は円陣を組んでバレーボールをしたりするなど、楽しそうに遊ぶ姿が印象的でした。男子校であるセントメリーズ校の生徒にとって、女子の参加は珍しかったのではないのでしょうか。最初は緊張していた中学生たちも、新しい「仲間」と一緒に時間を過ごすなかで、互いに打ち解け合っていました。一日だけの体験入学でしたが、日本の学校とは違う「異文化」に触れることで、新しい発見や気づきがあったことと思います。中学生たちは、お土産としてもらったセントメリーズ校のTシャツを大事に持ち帰っていました。最後に、訪問のコーディネートをしてくださったセントメリーズ校のキム先生にお礼を申し上げます。(朝倉洋子)



ユネスコ中学生クラブ

3月は修了式(3年生を送る会)、4月は開級式とユネスコ紹介が行われました。5月から7月にかけては、地中海沿岸の国々を取り上げました。各国とも民族や言語、宗教に違いがあり、生活スタイルにも差がありますが、古くから地中海を通じて交流してきたことから、共通する特徴も垣間見られました。異文化が溶け合う非常に魅力的な地域です。



3月11日 3年生を送る会



4月8日 開級式とユネスコ紹介



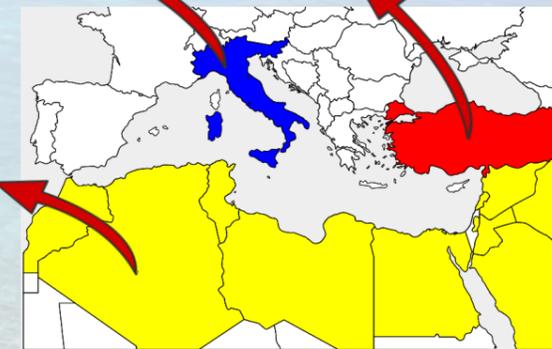
7月8日 イタリア



5月13日 トルコ



6月10日 アラブと中東



青年部 第22回広島スタディツアー

2023年3月27日(月)~30日(木)

広島平和記念公園・資料館●原爆ドーム
本川小学校●広島陸軍被服支廠
国連ユニタール広島事務所●宮島・厳島神社



広島スタディツアーを終えて

青年部部长 湯田 晴斗

新型コロナウイルスの影響を受け4年ぶりの開催となった広島スタディツアー。この4年間にウクライナでの戦争など、大きな出来事が数多く起こりました。不安定な世界情勢で世界が再び核兵器の力を利用しようとし、また日本も核の傘に守られているなか、被爆地である広島を訪れたことは貴重な学びの機会になりました。

想像力を働かせ、歴史を多角的に見る

私は今回のツアーで主に二つのことを実感しました。一つ目は、想像力の欠如です。原爆に関することを見聞きするたびに、個人への理解が足りていないと感じました。被爆者の小倉桂子さんのお話を聞いた際、特にそれを強く感じました。被爆者の方の精神的、肉体的苦しみは、実際に被爆していない私たちには完全に理解することはできないと思いますが、私たちも少し想像力を働かせればわかるはず。もちろん当時の原爆の使用に関与した人たちも理解できたはず。しかし実際には、原爆は落とされ何十万人もの人々の命を奪ってしまいました。これはなぜかと考えたとき、人は大義や国家、国民など大きな視点だけで見てしまうと、こんな単純なことも理解できなくなってしまう。他者への無理解、国家規模の一人よがりな考えが、多くの人命を無差別に奪ってしまうのだということ、小倉さんのお話をお聞きし、改めて考えました。

二つ目は、歴史は知っているようで知らないことが多く、多角的に見る必要がある、ということです。原爆は単に戦争に勝つためだけでなく、「実戦で使用した際のさまざまな影響を把握するため」でもあったことを今回



▲被爆体験を語る小倉桂子さん

学びました。原爆の学習は日本で幼い頃からありますが、そのようなことを知らなかったのは、私たちが日本の視点からしか歴史を見ていないためだと感じました。どの国の国民であっても自分の国を他国の視点から見ることで、自国の良いところも悪いところも見ることができます。被爆者の小倉さんのお話で、アメリカに行き原爆の話をしたときに、アメリカの

方に「原爆が落ちたおかげであなたは助かった、生き残った」と言われたそうです。この方が日本の現状や歴史を知っているかはわかりませんが、知ったうえでどう認識するかは自分で判断しなくてはなりません。さらに他国と関わるうえで、自国の歴史を多角的に他国の視点からも知っておくことで、より深い議論をすることができると思いました。

次の被爆者を出さないための努力

今回、原爆に関する遺跡や当時のものを実際に目にすることができました。そのように目に見えるカタチとして残したのは、当時の人々が次の原爆被害を出さないための努力をしたからではないのでしょうか。また、原爆が落ちた真下にはカタチのあるものは何も残りませんでしたが、その場にある説明板の記述を読むと、思わず空を見上げてしまいます。こういったモノを残したことや碑を建てたことは、原爆を落とした国の人間を恨むのではなく、次の被爆者を出さない努力をするためだという小倉さんのお話にも繋がるのではないかと思います。

今、原爆は世界を何度も滅ぼすほどの個数がありますが、もしどこかの国が他国に原爆を落としたとしても、復讐としての核使用を自制することで、さらなる被爆、破壊を防ぐことに繋がります。原爆の使用を防ぐには、発射場からは見えない目標地にも、自分たちと同じ人間が生活していることを理解し、自国だけを尊重するのではなく、あらゆる視点で平和のためにやるべきことを考えることだと感じました。

最後に、本ツアーを実施するにあたりご支援いただいた方々、団体の皆様に心より感謝申し上げます。



報告

書きそんじハガキ回収キャンペーン

回収したハガキ 4,346枚 (191,539円分)
ご協力ありがとうございました

区民の皆様から3月20日までに、4,346枚のハガキを回収させていただきました。191,539円分の切手に交換し、日本ユネスコ協会連盟「世界寺子屋運動」(途上国の教育支援)に寄付させていただきます。また、未使用切手69,586円分とテレホンカード、ギフトカード、食事券もお寄せいただきました。こちらをあわせて寄付させていただきます。ご協力いただき、ありがとうございました。



郵送にて随時回収中

杉並ユネスコ協会事務局にて、随時、回収を行っています。

〒167-0043

杉並区上荻 2-34-10 山田正方

報告

西田小学校 出前授業

チェルノブイリの子どもたちへの支援に関わって

2023年6月28日(水) 小寺隆幸 理事

杉並区立西田小学校の6年生を対象に、チェルノブイリの原発事故を題材とした出前授業を行いました。1986年に発生した原発事故は、ウクライナをはじめ広範囲に大量の放射性物質を振りまき、土壌や人間の体に甚大な影響を与えました。とくに子どもは小児甲状腺ガンなど深刻な病気を抱えることになり、10代で命を落とす子どもも多数いました。その状況は日本の原発被害とも重なります。近年では病気と闘う子どもたちへの支援が広がりを見せ、その子どもたちから逆に希望をもらうこともあるそうです。そのようなウクライナの子どもたちが今、戦争に巻き込まれています。小寺理事は、子どもたちのことを「想像する」こと、そして「共感する」ことが大事だと語っていました。そのメッセージが届いたのか、話を真剣に聞く児童たちの姿が印象的だったようです。

報告

次世代ユネスコ国内委員会

文部科学省/日本ユネスコ国内委員会主催

青年部 西野月さんがメンバーとして参加

次世代ユネスコ国内委員会は、日本のユネスコ加盟70周年を機に2021年に立ち上げられました。公募で選ばれた国内外の若者20名で構成され、青年部の西野月さんがメンバーとして参加しています。委員会では、今後のユネスコ活動やユネスコの役割について議論し、世界の若者と議論するイベントを企画・実施することになっています。

募集

ユネスコ運動の日 夢の島から学ぶSDGsバスツアー & 第五福竜丸見学

2023年9月26日(火) 8:30~17:30

- 行き先 ①第五福竜丸展示館
②東京都環境局中防合同庁舎・廃棄物埋立処分場



1954年、ビキニ環礁でアメリカの水爆実験により被曝した第五福竜丸

©第五福竜丸展示館

- 対象 区内在住・在勤・在学の方
 - 定員 30名(申込順)
 - 参加費 1,000円
 - 申込 メールまたは往復ハガキにて
9月1日(金)~9月15日(金)必着
- ※詳細は「広報すぎなみ」9月1日号をご覧ください。

お知らせ

平和展「あの日、ヒロシマで」 杉並区主催

2023年8月4日(金)~9月6日(水)
杉並区立中央図書館 1階 展示コーナー

広島に原爆が投下された日、そこで何が起きたのか。実話をもとにした漫画「あの日、ヒロシマで」(さすらいのカナブン著)を展示するとともに、当時の写真資料も交えて紹介しています。原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを考えてみませんか。

活動予定

9月 September

- 1日(金) 理事会
- 3日(日) 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京
- 9日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)
- 9日(土) 日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田
- 26日(火) ユネスコ運動の日
「夢の島から学ぶ SDGsバスツアー&第五福竜丸見学」

10月 October

- 6日(金) 理事会
- 8日(日) 中学生クラブ
(東京ジャーミイ訪問)
- 21日(土) ユネスコ料理教室
「ミャンマー料理」

11月 November

- 3日(金・祝) 理事会
- 11日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)

杉並ユネスコ合唱団練習 ※印は予定

- 9月14日(木) 9月28日(木)
- 10月12日(木) 10月26日(木)
- 11月9日(木)※

杉並ユネスコ協会会報 149号 2023年8月30日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻 2-34-10 山田正方

TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号10040 番号18974381 (ゆうちょ銀行間での振込)

店名〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438 (他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>